

# Management Club Report

Jun. 2008/Vol.66

## Monthly Opinion 《ある歯科医院の改革に学ぶ》

今回は、1軒の歯科医院での取り組み事例を題材にしながら歯科医院経営のあり方について考えていきます。登場してもらうのは、エンドの権威としてつとに名高い佐藤暢也先生が理事長を務める、秋田市土崎港の『医療法人東京堂・港町歯科クリニック』です。

総員30名強、一般治療用ユニット6台、予防用3台、本格的な手術室2室、技工室、事務室のほか、映像や音響設備完備の研修会議室を備えた文句のない堂々たる歯科医院です。

1軒の歯科医院としては、規模、内容、売上など総合評価においておそらく県内トップクラス、というよりも国内有数であろうと思いますが、本レポートでは、物理的な要素や規模的なことではなく、小規模な歯科医院においても大いに参考になるであろう考え方やマネジメント手法について取り上げていきたいと思えます。

歯科医院経営上参考になるのではと思える内容が記載された箇所では、要約したものを特に【参考ポイント】として掲載しました。それぞれの医院に合うようであれば是非採り入れてみてほしいと思えます。

1

### 意識改革、体制変更、設備投資、行動改革

#### 最初の訪問で目に留まったモノとヒト

昨年秋、佐藤先生からの要請があり港町歯科クリニックを初めて訪れた時のことです。医院全体を案内してもらい、診療風景をしばらく観察することにしたのですが、聞きしに勝る院内設備の充実振りでしたが、外部の目から見ると「？」がつくような院内の動きやシステムがあることも事実でした。

長年積み重ねて出来上がった内部のシステムや行動様式は、それなりの合理性を追求してきた結果ですので、内部の人にとっては日常の一部になっており、仮に外部から見れば違和感のあるものであっても、指摘を受けない限りそのことに自らが気付くことは少ないものです。

院内改革を起動するに当たって佐藤理事長は、その辺りの指摘を私たちに求めたのですが、指摘を受けた後、瞬く間に改善を実行してしまい、その実行力の確かさとスピードには舌を巻くばかりでした。

これまでの経験からも言えることですが、伸びる歯科医院、活性化している